

受講番号 18033 学校名 高知西高等学校 氏名 林 博子

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年1組 生徒数 30 名
 科目名 ライティング 単位数(授業時数) 2 時間 使用教科書名 EXCEED English Writing

クラスの様子・特徴

普通科6クラス中2クラス設定されている「ダブルドート」(国公立コース)である。素直で真面目、学習意欲も比較的高い。指示された課題には真面目に取り組み成績もいいが、英語に対する苦手意識が強く、意欲・学力ともに個人差が大きい。

問題の確定

既習事項を復習・定着させ運用できるように繰り返し練習することで、苦手意識を取り除き積極的に取り組む雰囲気を作る。

予備調査

A 授業の観察

授業態度は真剣で、与えられた課題にも真面目に取り組む。授業時に質問することは少なく、授業後個別に来る生徒が多い。問題を解答する際にも、間違ふことを不安がる傾向がある。苦手意識が強く、自主性・積極性を十分発揮できていない。

B 生徒による授業評価

英語学習について「単語を知らないので読解も英作文もお手上げ」とか「学習方法がわからない」という生徒が多く、語彙や構文、長文読解の指導に対する要望が多い。予復習は、単語調べやノート作り等が中心である。

C 学力データ

・第1回課題テスト:平均68.5<最高94/最低45> ・英語Ⅱ(前期中間テスト):平均点73<最高97/最低61> ・ライテ(前期中間テスト):平均点82.8<最高99/最低71> ・進研模試:偏差値50以上8人

リサーチ・クエスト

基礎的な語彙や文法を定着させ、英語を正しく理解し、英語で表現する力を育てるにはどうすればいいか。

仮説・実践・検証

仮説1

語彙、語法、構文について、使える表現を増やす指導をすれば、表現力は伸びるだろう。

実践1

「システム英単語」のミニマルフレーズ暗記や小テストを実施する。各レッスンのポイントを使った英作文を毎時間時間(3~5分)を設定して書かせる。添削用の「構文ノート」と教科書の文法事項を関連させながらすすめる。

検証1

「システム英単語」は1年次に購入させた単語集である。最初は難しいと感じていたようだが、年間の計画に組み込まれているので慣れてきたようだ。(いい意味でのあきらめの境地は必要である)その他の問題集もきちんと取り組み、定期考査や模試で役立っていつことを実感している生徒も増えている。ただ、直前だけ勉強する生徒も多く、全体の定着にはつなげない。

仮説2

教科書を中心に既習事項の定着をはかり、英文のSVや意味のかたまりを意識して音読練習を繰り返せば、語順の理解・文法力を身につけることができるだろう。

実践2

条件英作文・下線部補充英作文・並べかえ英作文・自由英作文(教科書の表現を利用して作るものではない)等いろいろなパターンの英作文を練習することで、英語の語順やルール、意味のかたまりを意識させるようにする。問題の答え合わせがすんだら、できるだけ音読して確認しながら板書を消す。教科書の英文(パート1)は若干分量が少ないので、英語Ⅱの教科書で使われている表現等とも関連づけて練習させる。

検証2

同じ文法事項でも、違う形で問われると答えられないことを実感し、問題に取り組む際にそのことを次第に意識するようになってきた。しかし、覚えた表現を単独では使えるようになってきているが、いくつかの表現が組み合わされた課題文を一定のスピードで解答していく練習はまだ不十分である。

仮説3

英語で自分のことや身近な興味のある話題について表現することに慣れることで、苦手意識が薄れるだろう。

実践3

ウォーミングアップに身近な題材のQ&Aや英作文を用いて、リラックスした雰囲気の中で授業を始める。毎時間各レッスンの学習事項について英作文を書かせて評価に入れる。(Write About It) 週1回課題英作文を書かせる。

検証3

生徒が自分で考えて作った英文を見ると、生徒のつまづきがどこにあるのか、どんなことに興味があるのか等がよくわかって興味深い。"Well done!"や"Good"等決まりきった文句だけしか書けないことも少なくないが、ひとことでもコメントを添えると生徒の反応がよいし、それをきっかけに表現指導につながることができる。

研究の成果

自分自身の指導計画・授業・評価等について、意識的に見直しアプローチの方法を変えたり、同僚と意見交換をしたり、以前より考えるようになった。また、生徒にどのような力をつけたいのか、そのために何が必要かを明確にし、指導の全体像をイメージするようになった。模試の和文英訳を手つかずにせず、少しでも書いてみようという生徒の層が増えてきたこともうれしい成果である。

今後の授業改善の課題

課題の絞込みが十分でなかったため、意識の変化・意欲の高まりといった漠然とした雰囲気を実感することはできたが、目に見える具体的数値で検証することができなかった。(11月の進研模試の表現の分野の得点率は下がっている)また、繰り返し練習させる時、マンネリ化しないように生徒が取り組めるタスクをもっと工夫する必要がある。そのために、負担のかからない形で授業観察を続け記録していくことが大切だと感じている。

リサーチについての問合せ先:

職場電話 088-844-1221 電子メール

hiroko_hayashi@kt5.kochinet.ed.jp